

## 研修報告書No. 1 5

高知県□□地域(○○病院及び周辺の診療所等)にて1ヶ月間研修させていただきました。自分は、東京都生まれであり、研修も都内で行っているため、施設や設備が豊富な環境の中におり、都市部とは異なった地域の患者さんの背景や医療設備、医療の現状などを学びたいと考え、高知県を選択し、その中でも都市部から交通の便の悪い山間部の□□地域を選択しました。□□地域に行き、まず初めに感じたことは、過疎についてでした。過疎化指数においては、高知県は日本内で都道府県別に毎年、3位あるいは4位程度です。この過疎地域での人々の生活や自分がこのような環境に生まれ育ったらどのような生活をしていただろうか、医療については十分か、どんな補助制度の活用をしているのか、そんな事を考えながら、研修開始となりました。

研修中は主に○○病院で行い、日によっては、半日あるいは一日中、周辺の診療所や各施設等での研修及び訪問診療に参加させていただきました。○○病院は、4つの町村(△△町・◇◇町・▽▽町・○△村)を担う僻地拠点病院・救急病院で、急性期・療養型病棟があり、患者は過疎化のためにほとんど高齢者でした。高齢者が多いため、退院までのマネジメントが重要だという印象を受けました。疾患も高齢者に多い心不全、肺炎、脳血管障害等が中心でした。訪問診療や各施設では、在宅で介護をしてくれる家族がいる方や一人暮らしの方、全身状態は安定しているが一人暮らしが困難な方等、様々な背景の方がいらっしやいました。各施設での研修中に有料の老人ホームが少ない事に気付きました。過疎で入居者数および入居希望数が都市部に比べ非常に少なく、介護士や看護師不足の影響のためと考えられました。

普段自分は、大学病院で研修しており、専門の科が細分化されていますが、○○病院では、内科は内科の一つであり、内科的疾患を臓器関係なく診療していました。大学病院のように専門性はありませんでしたが、設備はCT、MRI、内視鏡などがあり、さらに透析が可能であり、医療の質不足はさほど感じませんでした。ただ、医師数の不足が目立ち、内科の医師の数は6人で、その人数で当直や外来、病棟、その他の業務をこなすことは並大抵ではない労力が必要と感じました。さらに、4月からは1人の先生が高知県内の他の病院に異動となるため、より多くの時間、労力が必要になります。他の病院における医師不足の問題も耳にすることがありました。医師数の問題もありましたが、○○病院では、スタッフ間の距離感が近い事やそれぞれの分野の方が集まるカンファレンスがあること、そして何より患者さんと医師の距離感が近く、上級医の先生方は患者さんから信頼されていることなどが印象深かったです。もちろん医師だけでなく、その他のスタッフも同様に思いました。その場の治療だけでなく、患者さんの人生に関わりながらの医療に刺激を受けました。

高知県での医療の現状や地域医療は自分にとって、とても印象的で、医療の現状や嶺北という環境などを含め今後に生かしていきたいと、有意義な一か月間でした。

最後になりましたが、この場を借りて、〇〇病院や各診療所、各施設のスタッフの方々  
そして高知医療再生機構の方々に心より御礼を申し上げます。